



岡本 則夫

・地域の振興対策について

道の駅構想について

質問 本年度、執行方針の中に「道の駅」という字句があったが、現在の程度進んでいるのか。場所は決定したのか。

町長 平成31年度町政執行方針において「交流・交通の要所となる拠点の整備について検討協議を進める。」と上げており、平成27年度に策定した、幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「町への新たな導線を確立するための施設整備構想の具体化」を目標に掲げ、平成28年度に「幌延町地域振興・観光計画」を策定し、検討協議を進めているほか、観光資源調査、町内観光関連事業者へのヒアリング調査、観光モニターツアー、町の食材を使った食イベント等の事業を実施している。

質問 トナカイ観光牧場の今後について

・おみやげ品の開発などについて検討を進めている。
質問 町の中では、既に道の駅がもうできるような話まで出ており、バイパスの道路にそった場所にするならば、既に遅いのではないのか。
町長 道の駅と限定をしていない。2年間、産官学金言労議で協議を進めている段階であり、特産品づくりまたは観光コンテンツをどう進めるかということも議論している。
質問 何十年先の計画を立てて、プロジェクトを組んでいるのか。
町長 期日は決定していないが、町民の皆さんに承認をいただける意見が協議の中でまとまって行くと思う。



ような形で今後続けていく考えなのか。

町長 引き続きトナカイを町の顔として周知していくためにも、仕組みや体制づくりについて、検討を進め、町の振興に繋げたい。

この観光牧場の中で、畜産としての業をなすということではないが、町内に少しでも循環をして、製造したい人の手に渡るように肥育ができないのか、それぞれ担当とも相談している。

質問 民間でやられてる方の手を借りなければ、トナカイ観光牧場を維持できないのか。

町長 今は民間にお世話になつてるといのが実態。トナカイの飼育したいということ、獣医学科を出た方が研修に来ている。そういう方たちに就農してもらえよう、そういう道筋を少しでもつくりたい。

第4回

まちづくり常任委員会

6月6日

▽地域コミュニティ形成事業等実施について

幌延町の地域や集落で暮らし続ける事の出来る仕組みづくりを目指す事業であり、国の関連制度を活用し地域運営組織等が運営する「集落支援センター」によって、その機能の維持運営を目指す。

形成事業である。

▽電源立地地域対策交付金について

幌延深地層研究センターの立地に伴い交付されている交付金で、幌延町及び周辺地域が対象。

町では平成16年、18年と平成26年、30年の8年間で1億5百31万4千円が電灯給付金として各戸に契約口数に応じて配分されている。令和元年度以降、令和5年度まで現状を勘案し継続実施する事となった。

問 動力分も契約量に応じて各戸配分出来ないのか。

答 平成30年度実績で約3千9百96万4千円が交付されているが、特定電力などで全町民的な均衡が取れないこともあり、現在は福祉や医療サービスの充実に当てている。

▽公金の手数料等の見直しについて

最近の長引く低金利金融経済や社会情勢などから、平成14年度頃から全国的に見直しが進められてきた。

問 議会と行政が検討課題としてきた、生活交通弱者対策が主要な事業だと思いが、コミュニケーション形成事業の課題のひとつだが、まずは地域や集落ごとの悩みや要望を収集調査し最終的に交通弱者対策に結びつける事が理想的ではないか。
問 集落支援員の業務内容は。
答 地域・集落ニーズ等の把握やイベント等事業支援、おためし協力隊支援などが、あくまでも主体は地域の人達であり、お互いの役割分担を発掘して行くのが今年度の地域コミュニティ